

2010年度 施政方針

2010年第2回市議会定例会の開会にあたり、今年度の施政方針を申し述べさせていただきます。

私は、3月に開催された第1回市議会定例会において、市長としての2期目は、「町田の未来をつくる」をテーマに市政運営を進めていくことを表明いたしました。この度は、そのスタートとなる今年度の主要な施策についてご説明申し上げ、議員各位並びに市民の皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

まず、市政を取り巻く状況について、私の認識を申し述べさせていただきます。

我が国の景気は、持ち直してきていると言われてはいますが、失業率が高水準にあるなど、依然として厳しい状況にあります。この長引く景気の低迷は、市内の経済や市民の暮らしに大きな影響を与えています。

また、昨年は新型インフルエンザが世界的に流行し、今年に入ってからハイチ地震や中国・青海省地震など、世界各地で大きな地震が発生しており、健康危機や自然災害に対する市民の関心が高まっています。

環境問題では、地球温暖化が深刻になる中で、世界規模での対策を進めていくことが求められており、町田市も、その一員としてより一層の取り組みを進めていかなければなりません。

また、地方分権改革の必要性が叫ばれて久しくなりますが、国から地方への権限や財源の移譲は未だ十分になされておられません。

このような状況の中、市の歳入では市税収入が大幅な減収となる一方で、歳出では扶助費などの義務的経費が増加する傾向にあり、今後も当分の間は厳しい財政見通しとなっています。

こうした状況を踏まえ、2010年度は、1. 変化する社会情勢への迅速な対応、2. 将来の町田への投資、3. 選択と集中による「今すべきこと」の重点的な実施。

以上3つの視点で市政を運営してまいりたいと考えております。

それでは、ここで、2010年度の主要な施策について、第1回市議会定例会でお示しした4つの政策の方向性に沿ってご説明いたします。

第1は、「暮らしの安心・安全をつくる」についてです。

多くの市民の皆様にご協力をいただいて実施した市民生活に関するアンケート調査や、市に寄せられたご意見などから、子育て世代では「子育て・教育に対する不安」、中高年世代では「将来に対する不安」など、世代ごとに生活の不安を抱えていることがうかがえます。

また、世界的な流行が懸念される鳥インフルエンザや、今後30年間に高い確率で起こるとされている首都直下型の大地震などに対する備えが必要となっています。

このため、次の時代を担う子どもたちを地域全体で育てていく子育て・子育て支援に取

り組むとともに、誰もが安心して、安全に暮らせるまちづくりを進めてまいります。

子育て・子育て支援につきましては、喫緊の課題である保育所入所待機児童の解消を図るため、全国初の取り組みとして注目された20年間期間限定認可保育所の増設、既存の認可保育所の増築や分園の設置など、市内の保育所の定員増に引き続き取り組みます。

また、子育てに関する多様なニーズに応じるため、私立幼稚園への入園促進や、忠生地区における子どもセンターの建設に向けた取り組みなど、地域における子育てを支援します。

小学生の保護者が安心して仕事を行えるようにするため、学童保育クラブの開所時間の延長や、施設の整備を推進するなど、児童の保育環境の充実に取り組みます。

また、児童・生徒が安全かつ快適に学校生活を送れるようにするため、市立小中学校の耐震化やトイレの改修、小山中学校の建設など、教育環境の整備を推進します。

安心して、安全に暮らせるまちづくりにつきましては、「健康」の視点に立った総合的かつ一体的なまちづくりを推進するため、来年4月の保健所政令市への移行に向け、人材育成や組織体制の整備を進めます。

また、市民病院における医療サービスを安定的に提供していくため、医師や看護師、診療情報管理士など、医療従事者の確保に取り組みます。

高齢者が身近な地域で生活を続けられるようにするため、地域密着型サービスを提供する事業者や、特別養護老人ホームを開設する事業者に対する支援を行うなど、高齢者施設の充実に取り組みます。

また、いつでも安全に暮らせるようにするため、町内会・自治会や商店街における地域ぐるみの防犯活動を促進するとともに、自主防災組織への加入促進や、防災リーダー講習会の実施など、地域防災力の向上に取り組みます。

第2は、「夢のあるまちづくり」についてです。

文化・芸術やスポーツは、私たちの生活にゆとりと潤いを与え、明るく豊かな社会の形成にも重要な役割を果たしています。

町田市からは、全国や世界で活躍するアーティストやアスリートを数多く輩出しており、その姿は、私たちに夢や感動を与えてくれています。

このような意義や地域特性を十分に認識し、活力あるまちをつくるため、文化・芸術やスポーツによる夢のあるまちづくりを進めてまいります。

文化・芸術によるまちづくりにつきましては、市民がより身近に文化・芸術に接することができるようにするため、300人規模のホールを兼ね備えた鶴川駅前公共施設の建設や、博物館をはじめとする文化関連施設のあり方の検討など、文化・芸術の拠点となる施設の充実に進めます。

また、若手アーティストの活動を支援するため、全国町田ピアノコンクール受賞者によるコンサートや、全国大学版画展の開催など、発表する機会の提供に引き続き取り組みます。

スポーツによるまちづくりにつきましては、市内のスポーツ人口を増やすため、地域スポーツクラブの支援など、身近なところでスポーツができる環境づくりを進めます。

また、スポーツを観て楽しむ環境をつくるため、2013年の東京国体開催に向けた市立陸上競技場や小野路球場の整備のほか、町田を拠点に全国で活躍するスポーツチームの応援など、身近なところでトップレベルのスポーツに触れる機会の充実に取り組めます。

第3は、「環境先進都市をつくる」についてです。

町田市では、環境に対する市民の意識が非常に高く、ごみの減量や緑地の保全など、市民と行政が協働して環境を守る活動に取り組んできた歴史があります。

また、町田市北部の丘陵地域をはじめ、市内には多くのみどりが残されており、東京圏の貴重な資源にもなっています。

このような歴史や資源を活かした環境先進都市となるため、地球温暖化対策に取り組むとともに、みどり豊かなまちづくりを進めてまいります。

地球温暖化対策につきましては、市内からの二酸化炭素排出量を削減するため、住宅用太陽光発電システムや電気自動車の普及など、地球に優しいエネルギーの利用を促進します。

また、ごみ処理に伴う環境負荷を少なくするため、生ごみの堆肥化や、イベント会場におけるリユース食器の利用促進など、ごみの減量を進めるとともに、再資源化への具体的な取り組みの道筋を示す一般廃棄物資源化基本計画を策定します。

みどり豊かなまちづくりにつきましては、貴重な自然環境を将来の世代に引き継ぐため、薬師池西公園や三輪緑地などの公園緑地の整備を進めるとともに、水田の維持管理の支援や、援農ボランティアの育成など、都市農地の保全に取り組めます。

第4は、「地域経済の活性化と行政経営改革」についてです。

まず、町田を元気にする地域経済の活性化について申し上げます。

世界的な景気後退を受け、市内の事業者は非常に厳しい経営状況にあり、景況感や実際の売上高は依然として低めで推移しています。

中心市街地から半径10キロメートル圏内には約200万人が住んでいますが、この強みを活かしきれていないのが現状です。多くの人を市内に呼び込み、地域経済の活性化につなげていかなければなりません。

そこで、市内事業者の事業活動の活性化を図るため、ものづくりの技術や製品をPRする際の支援や、現在進めている新庁舎建設工事における地元企業の参加機会の確保のほか、コミュニティビジネスの普及や促進など、事業機会の拡大に取り組めます。

また、町田市を訪れるお客様を増やし、おもてなしをするため、4月に開設した「町田ツーリストギャラリー」による観光情報の発信や、小野路宿通り周辺の整備、新たなフットパスコースの開発など、観光振興に取り組めます。

「クルマに頼らない移動手段」のある交通環境を構築するため、連節バスや新たなコミュニティバス路線の導入検討など、公共交通の利便性の向上に取り組めます。

また、人やモノの広域的な交流を活発にするため、幹線道路網の整備を国や東京都などと共同して進めます。

次に、中長期を見据えた行政経営改革について申し上げます。

私は、就任して以来、市民の目線で、市民の常識に応える行政経営改革を進めてまいりました。今後も市民から信頼される市政を目指して、さらなる改革を進めてまいります。

市民との情報共有をさらに進めるため、ホームページの全面更改や、広報まちだの改善など、よりわかりやすい情報提供に取り組むとともに、地域市政懇談会の充実や、市政モニターの積極的な活用など、市民の多様な意見の把握に努めます。

また、市有財産の適正な管理と活用を図るため、市有建築物の計画的な維持保全に取り組むとともに、公共施設跡地等の有効活用を進めます。

以上のような考え方で編成いたしました2010年度6月補正予算案の規模は、

一般会計、32億5,667万5千円、特別会計、2億6,512万円、合計、35億2,179万5千円となり、当初予算と合わせると、一般会計、1,331億756万円、特別会計、947億5,491万5千円、合計、2,278億6,247万5千円となっており、昨年度の当初予算と比べ、約4.1%の増となっております。

我が国を取り巻く社会情勢は刻一刻と変化しており、将来を予測することが困難な時代になってきました。こうした時代だからこそ、市民の暮らしに一番近い基礎自治体が、地道な取り組みを積み重ね、その蓄積で新しい日本を創っていくことが必要です。私は、町田市をそのモデルとなる都市にしたいと考えています。

そのために、42万すべての市民が希望の持てるまちをめざして、先程申し上げたさまざまな施策の推進に全力を挙げるとともに、今後の町田市の発展の道筋を示す中長期計画の策定に取り組めます。

議員各位並びに市民の皆様のご理解、ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

以上、今年度の施政方針を申し述べさせていただきました。ありがとうございました。